

平成 23 年 4 月、初めて子ども（娘）を授かり一児の父親になりました。娘が生まれたのは 4 月 11 日の夕刻でした。ちょうど東日本大震災の大きな余震があった頃で、私が住む地域でも震度 5 弱の大きな揺れがありました。私はその頃、妻の出産に立ち会っていました。母体とつながったへその緒が切られるや「おぎゃー」と大きな産声が部屋中に響き渡りました。まさに娘の独立宣言でした。

今は母体から離れた身体的な「独立」ですが、やがては自力で社会生活を営めるよう、娘の精神的・経済的な独立に向けた息の長い子育てが始まりました。

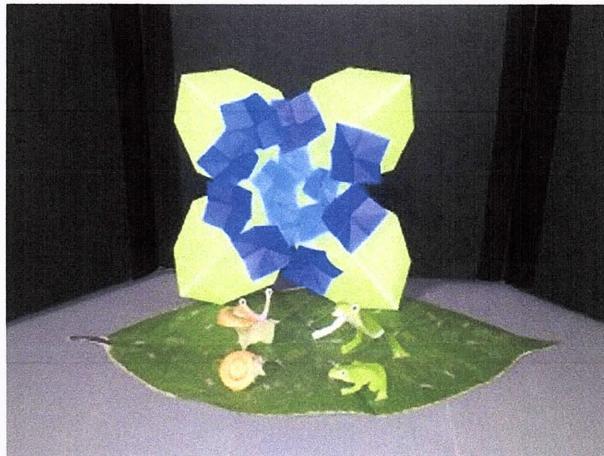
育メン政治家の育児物語

第三部

地域政党日本新生代表
前阿賀野市長 天野 市栄

第61話：梅雨の頃に咲く花と言えば…

(2015年7月1日付けブログ)



今日から7月です。朝から「しとしと」と雨が降っています。気象庁の発表によれば私が住んでいる北陸地方（新潟県）も先月19日頃から梅雨入りしたようです。梅の実が熟す頃ということから「入梅（にゅうばい）」「梅雨（つゆ）」と呼ばれ、高温・多湿の日々が続いています。ウサギの通うタンポポ

幼稚園では、月曜日にプール開きが行われる予定でしたが、先週末から続く雨模様の天気のため延期になっています。日曜日に家族で、食事も兼ねて近くのショッピングセンターに出掛け、水着などプールでの水遊びに使う品々を買いそろえ、ウサギもプール開きを楽しみにしていただけに残念です。

さて、梅雨の時期に咲く花と言えば、「アジサイ」を思い浮かべる方が多いと思います。それでは生き物では何でしょうか。私は「アマガエル」と「カタツムリ」を連想します。田植え後の田んぼではアマガエルたちがにぎやかに鳴き、アジサイの隣ではかたつむりたちが楽しく遊んでいます。梅雨が明ければ（北陸地方の昨年の梅雨明けは今月21日頃。平年では24日頃）、太陽がいっぱいに照りつける夏がやってきます。

（代表 天野 市栄）

第62話：「輪ゴム鉄砲」で悪い怪獣をやっつけろ！

(2015年7月5日付けブログ)



今回のレポートはウサギの趣味というよりはパパの趣味の話になってしまいました。

怪獣映画の金字塔を打ちたてた『ゴジラ』シリーズの新作が来夏に劇場公開されます。

東宝製作による『ゴジラ』が2004年の『ゴジラ FINAL WARS』をもってシリーズに終止符が打たれてから10年目の昨年（2014年）に劇場公開されたハリウッド版『GODZILLA ゴジラ』の世界的ヒットで、ゴジラ熱が再燃したことから本家本元も黙ってはいられないということなのでしょうか、ゴジラファンの声援に応える形で日本を代表する伝説的シリーズが来夏にも復活します。少年期に怪獣映画に夢中になった中年おじさんもワクワクしながらその時を待っていますよ。今年4月、新宿・歌舞伎町の旧コマ劇場跡地に建設された新宿東宝ビルの屋上にゴジラの頭部を再現した実寸大オブジェ「ゴジラヘッド」が設置され、新たなランドマークになっています。

ゴジラが最初に劇場公開されたのは私がまだ生きていない1954年ですが、私が幼少期・少年期に夢中になった怪獣シリーズといえば、このゴジラシリーズとウルトラマンシリーズに出てくる怪獣でした。「怪獣」は突如、人間社会に現れて破壊活動をする「悪者」、人類の脅威・恐怖の対象として描かれていますが、実は人間の身勝手な行為を表現

した作品もあります。初代の『ゴジラ』は当時社会問題となっていたビキニ環礁の核実験に着想を得て製作され“水爆大怪獣映画”『ゴジラ』として公開されました。

話を本題に戻しますと、ウサギとパパの連合軍で悪い怪獣をやっつける道具はといえば、「輪ゴム鉄砲」です。少年期に輪ゴム鉄砲を作った記憶がありますが、作り方が分かりません。さっそくネットで調べたらありました。割り箸5本と輪ゴム7~10本あれば簡単に出来上がります。ウサギは「輪ゴム鉄砲」で、パパは「輪ゴム」ピストル（親指・人差指・小指を使用）で怪獣をやっつけます。

「ウサギ、すごい！2頭倒したぞ。あれ？パパの方は弾が当たったけど倒れないよ。ピストルじゃ無理かな。」（代表 天野 市栄）

第63話：今日は七夕 今夜はおりひめとひこぼしは見えるかな

(2015年7月7日付けブログ)



今日は7月7日の七夕です。七夕の日は、一年に一度だけ「おりひめ(織女)」と「ひこぼし(牽牛)」が天の川の上でデートをする日といわれ、この日にちなんで、願い事を書いた短冊を笹の葉につるし、おりひめ星に技芸の上達を願います。(写真左)

先日、ウサギが幼稚園で作った七夕飾りを居間（今ではウサギの遊び部屋になっていますが…）に飾りました。（写真右）絵馬のような飾りがあって、ウサギから「私の願い事を書いて」と言われ書いてあげました。「おおきくなったら、でんしやのうんてんしゅになりたい。　うさぎ」「最近、あまり乗り物には興味を示していないのになー？？？」

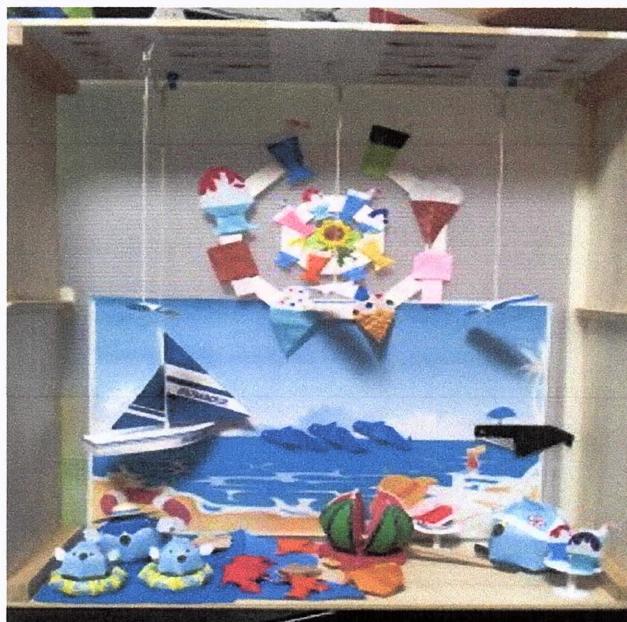
気になる今夜の天気は、降水確率は0%ですが雨雲が近づいてきそうなシミュレーションが出ています。梅雨の時期ですから残念ながら星空は無理なのかもしれませんね。旧暦の七夕（今年は8月20日）に満天の星空を期待しましょう。

（代表 天野 市栄）

第64話：今日から3連休 「海の日」はウサギと海に出掛けようかな。

ところで気になるお天気は…

（2015年7月18日付けブログ）



今日から3連休が始まりましたが、熱帯低気圧に変わった台風11号の影響で全国的には雨模様の天気になりそうです。私たちが住んでいるここ新潟県下越地方の週間天気予報を見ても、今日は「曇後雨」、明日は「曇時々雨」ですが、海の日の天気は「曇時晴」の予報なので好天が期待できそうです。

さて、ウサギの通うタンポポ幼稚園では、先月下旬にプール開きが行われ、天気の良い日には毎日プールで水遊びをしているようです。こんがりと日焼けしたウサギの顔や手足を見ていると、50年近くも前の私の少年時代（小学校の低学年の頃）を思い出します。

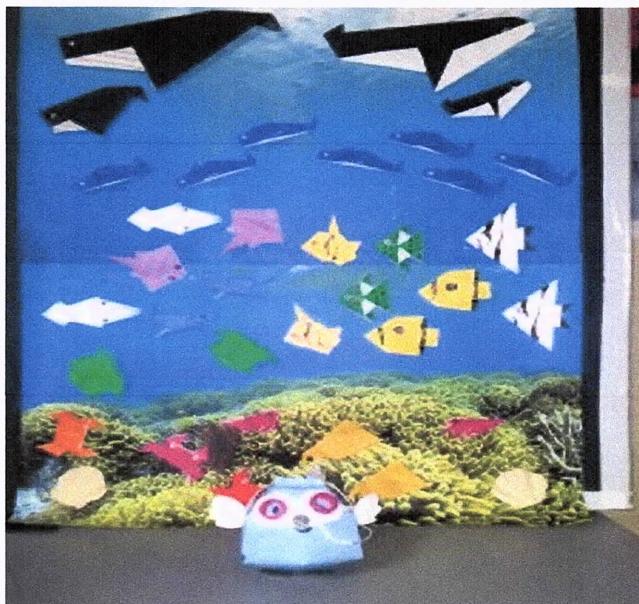
私は小さな農村集落で生まれ育ちました。当時は子どもがたくさんいて同学年が6人もいたと記憶しています。私が通った小学校には当時プールはありませんでした。隣町にある動物園に併設されたレジャープールに時々両親から連れて行ってもらったことを覚えています。普段はもっぱら家の近くを流れる小川で近所の友だちと水遊びや魚捕りをして遊んでいました。学校が夏休みになると、恒例の町内会行事として親子でマイク

ロバスに乗って海水浴に出掛けました。海水浴場に着くと浜茶屋で水着に着替えて、浮き輪を持って海辺にゴー。水中眼鏡で見る海の中は神秘的です。海面に漂っている海藻の周辺にはいろいろな小魚が泳いでいます。奇妙な形をしたクラゲもいます。岩場にはカニやヤドカリがせわしなく動いています。浜辺ではスイカ割りをして盛り上がり、地引網で捕った魚をその場で焼いて食べたこともありました。今は昔の話になりましたが、少年時代の夏休みの思い出の一つとして記憶に刻まれています。

(代表 天野 市栄)

第65話：「海の日」にウサギと水族館に行ってきました

(2015年7月23日付けブログ)



天気が良ければ近くの海岸に海水浴に行く予定でいましたが、朝方の空は雲が広がっていたので、海水浴は次回に譲ることにして、いつも行く水族館に出掛けました。水族館の駐車場はたくさんの車で混雑していました。車から降りた大勢の親子連れが水族館の入り口に向かっています。もしかして、私たちと同じような海水浴から水族館に変更した家族連れもいたかもしれません。

水族館に入ると最初に目にするのが、熱帯の海中を模した大水槽です。高さ1メートル程の台の上に深さ50センチ程、縦横1.5メートル程の水槽が設置されています。水槽の岩場にはサンゴやイソギンチャクなど熱帯の海に生息する水生生物が配置されています。その水生生物の間を赤、青、黄、橙、緑色などの色鮮やかな小魚がゆったりと泳いでいます。

「ウサギ、クマノミだ。」(パパ)

「ウン。キレイ。ほら、あそこに赤いエビもいるよ。」(ウサギ)

ホワイトソックスです。足の半分が白い靴下をはいたようになっていることから名付けられたのでしょうか。ひげを小刻みに動かすしぐさがとても愛くるしいですね。といえば、私がペーパークラフトでよく利用する「キャノンクリエイティブパーク」に「水族館シリーズ」というコーナーにクマノミやホワイトソックスがあったことを思い

出しました。家に帰ったら作ってみようかな。出来上がったら皆さんにもお見せします。＊写真は熱帯の海でスクーバダイビングを楽しむ「ごずっちょ」（阿賀野市ご当地キャラクター）です。今日みたいに暑い日は熱帯の海に潜ってみたいですね。（パパが先日の熱帯夜に見た夢でした。）

今日も午前中から気温が上昇しているようです。「熱中症に注意してください。」との館内放送が時々流れます。間もなくイルカショーが始まります。その前に売店でかき氷を買ってきます。「ウサギ、今日は何色？」（パパ）「今日は黄緑だよ。」（ウサギ）黄緑はメロン味です。かき氷の入ったカップを持ってスタンドに向かいます。本日最初のイルカショーなのでスタンドは大勢の観客で席が埋まっています。空いている席を見つけて着席。さっそくウサギはかき氷を口に入れます。「ウサギ、この前みたいに急いで食べると体が冷えて唇が紫色になるぞ。」（パパ）「大丈夫だよ。」（ウサギ）イルカショーが始まりました。イルカがジャンプして中央上部に吊るしてある赤いボールにタッチするシーンがありますが、前回見た時は残念ながら高さがわずかに足りなくてボールにタッチできませんでしたが今回はどうかな。イルカがジャンプして赤いボールにタッチしました。観客席から「わー」という大きな歓声が上がります。

「見事。」（パパ）「やったー。」（ウサギ）

お昼頃から青空が広がり夏空になりました。水族館からの帰りは海岸線を通ることにしました。沿線の海水浴場ではビーチパラソルが見えます。浮き輪を付けた子どもたちが海水浴を楽しんでいます。「ウサギ、今度は海水浴に行こうね。」（パパ）「うん」（ウサギ）（代表 天野 市栄）

第66話：ウサギ、大きくなったら何になりたいの？

（2015年7月24日付けブログ）



私が愛読する地元紙では日・月曜日を除く毎日、県内各地域の記事が掲載される地域版コーナーの上部に県内の小学生の近況報告が学校単位で掲載されています。現在取り組んでいる（チャレンジしている）事や将来の夢や就きたい職業が載っています。私が特に注目しているのは、小学生が将来就きたい職業です。今年4月中旬から、この部分を切り抜いてB5版ノートに

張り付けて（写真）整理しています。時々ウサギに見せていますが、4歳のウサギにはまだ理解できない職業も多いようです。

たまたま約3か月間の切り抜きを見て、男の子と女の子では「将来就きたい職業」に違いがあるのが分かりました。男の子の多くはサッカーや野球などのスポーツ選手です。そのほか電車や飛行機など乗り物の運転手、医師、大工、農家、警察官、消防士、自衛隊員など、どちらかというとハードな職業（力仕事？）が多いようです。一方、女の子の就きたい職業の多くは自分や家族の生活に関連した身近な職業が多いようです。パン屋、ケーキ屋、パティシエ、花屋、美容師、看護師、保育士、小学校の先生などです。女の子の方は、どちらかというとハートな職業（接客業？）が多いようです。

さて、化学メーカーの「クラレ」が毎年、小学新1年生が将来就きたい職業とその親が子どもに就かせたい職業を調べて自社のホームページで公開しています。（こちらのサイトを参照）4月2日に発表した2015年版では、男の子の就きたい職業の1位「スポーツ選手」、2位「警察官」、第3位「運転士・運転手」でした。女の子の方は、「ケーキ屋・パン屋」、2位「芸能人・歌手・モデル」、3位「花屋」でした。一方、親が子どもに就かせたい職業の方はどうでしょうか。男の子の親が就かせたい職業は、1位「公務員」、2位「スポーツ選手」、3位「医師」でした。女の子の親が就かせたい職業は、1位「看護師」、2位「薬剤師」、3位「公務員」でした。親が子どもに望む職業として「公務員」が上位を占めていますが、子ども方では、「警察官」や「消防士」（男の子）、「教員」（女の子）といった職種として公務員が5位以内にランクインしています。

今朝、ウサギに新聞切り抜きを見せて、
「ウサギ、大きくなったら何になりたいの？」（パパ）
「うちゅうせんのうんてしゅ」（ウサギ）

宇宙飛行士のこと？？？そういえば、昨日、日本人宇宙飛行士の油井亀美也（ゆいきみや）さんがロシヤのカザフスタンにあるバイコヌール宇宙基地から国際宇宙ステーションに向けてソユーズ宇宙船に乗って出発しステーションに到着したことを伝えるニュースを思い出しました。

「ウサギ、宇宙飛行士になって、パパとママを宇宙に連れていってよ。」（パパ）
「うん。」（ウサギ）（代表 天野 市栄）

第67話：ウサギと商店街の夜店に出掛けました

(2015年7月27日付けブログ)



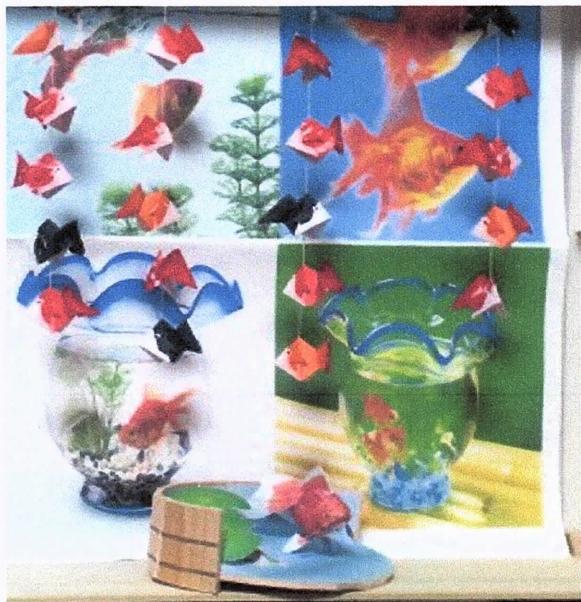
先週の土曜日（25日）は、日中の気温が30度を超す猛暑でした。夕方になり少しは気温も下がったことから、夕涼みを兼ねて家族3人で商店街主催の「七夕夜店」に出掛けました。商店街の通りは午後6時半から通行止めになりました。歩行者天国になった通りは大勢の家族連れで賑わっています。道路の両脇にはたこ焼き・焼きそば・綿あめ・かき氷など食べ物を提供するお店や、射的・金魚すくいなどゲームを提供するお店と神社の縁日に見られる露店の風景です。商店街のお店の方も割引セールを実施してお客様を呼び込もうと工夫を凝らしているようです。おもちゃ屋の店内を覗くと、たくさんの小学生が店内でひしめき合っています。子どもたちに人気のおもちゃがあるのでしょうか。

さて、ウサギのお目当ては「かき氷」と「金魚すくい」です。金魚すくいの前を通りがかりましたが、ママが「ウサギ、金魚すくいは帰りにしようね」と言って、かき氷を探します。途中、綿あめを見つけたウサギから「あれ、食べたい。」とリクエストがありました。「ウサギ、本当に食べるの？」店の前に小学生が並んで待っています。「ウサギ、順番だよ。はい、どうぞ」（パパ）「雲みたい。」（ウサギ）綿あめを食べながらかき氷を探します（写真左）。ありました。定番の「赤」「黄」「青」「緑」のシロップをかけたかき氷です。「青がいい。」（ウサギ）「はい、どうぞ」（パパ）お店の縁台に座って食べます。（写真右）いよいよ金魚すくいです。最中の皮でできた皿ですくいあげますが、金魚の方もすばしこく逃げ回ります。「ウサギ、上を泳いでいる小さな金魚を狙うんだぞ。皿を深くもぐすと破けちゃうよ。」とウサギにアドバイスしますが、うまくいきません。「あーん破けちゃった。」（パパ）お店の人から、残念賞として小さな金魚を2匹すぐつ

てもらいビニール袋に入れてもらいました。「ウサギ、家に帰ったらメダカさんの水槽に入れよう。」(パパ)「うん。」(ウサギ)
(代表 天野 市栄)

第68話：涼しさを感じる夏の風物詩といえば、これですね

(2015年7月27日付けブログ)



今日は7月の最終日です。小学校は既に夏休みに入っていますが、ウサギの通うタンポポ幼稚園の夏休みは8月に入ってからになります。昨日は園の行事として「芋掘り」体験がありました。ウサギが収穫したジャガイモをママが調理して夕食に食べました。ジャガイモを口に入れた時のホクホク感がいいですね。とてもおいしくいただきました。ウサギ、ありがとう。美味しかったよ。秋のサツマイモ掘りも期待しているよ。(パパより)

さて、気象庁の発表によれば私たち親子が住む北陸地方も21日頃に梅雨明けしたようです。連日蒸し暑い日が続いているが、今朝のヤフーニュースに納涼金魚ちょうちん船の記事が載っていました。浴衣を着た若い女性がうちわを持って金魚をモチーフにした提灯(ちょうちん)を眺めている納涼船の画像が載っていました。見ているだけで涼しくなりますね。記事によれば、この納涼船(観光船)によるナイトクルージングが今月23日から運行され人気を呼んでいます。場所は東京。日本橋船着場(東京都中央区)から出港し日本橋エリアの景色などが楽しめるそうです。

そこで、我が家でも連日の蒸し暑い夏を少しでも涼しくしようと金魚の飾りを作って部屋に飾りました。ペーパークラフトの展開図は「ヤマハ発動機」からゲットしました。折り紙は「おりがみくらぶ」からゲットしました。

(あとがき)

先週土曜日に商店街の夜店の金魚すくいでウサギがゲットした2匹の金魚を我家の水槽に入れて飼っていましたが、残念ながら1匹が死んでしまいました。もう1匹が元気に泳いでいます。今朝も餌をモリモリと食べて食欲は旺盛のようです。「ウサギも夏バ

テしないように、朝ごはんをちゃんと食べようね。」(パパより)
(代表 天野 市栄)

第69話：真夏の夜にウサギと「すごろく」にはまっています

(2015年8月10日付けブログ)



昨年暮れに、お正月に家族で楽しめるゲームのつもりで、ネット（「幼児の学習素材館」）からすごろくゲームをプリントアウトしましたが、肝心のウサギはほとんど見向きもしませんでした。ところが真夏のこの時期になって、「すごろくしよう。」とウサギにせがまれて朝晩すごろくゲームに駆り出されています。すごろくは「食べ物」と「生き物」をプリントアウト（A3版）して段ボールに張り付けました。写真

は「食べ物」ですが裏面は「生き物」になっています。駒はドミノ牌で代用しました。
まず、じゃんけんポンで先攻・後攻を決めます。

「最初はグー。じゃんけんポン」(ウサギ、パパ)
ウサギがチョキで、パパがパーです。

「ウサギの勝ちだ。」(パパ)
ウサギがサイコロを振ると5の目が出ました。駒を「だいこん」まで進めます。「だいこん」にはポイントが付いています。更に3つ進んで、「えだまめ」のところにきました。次はパパの番です。2が出ました。駒を「きゅうり」に進めます。

「あーん、ウサギに差を付けられたようー。」(パパ)
このすごろくには、更に前に進めるプラスポイントのついた食べ物のほか、「休む・戻る」マイナスポイントの付いた食べ物があります。

「うさぎ、バナナに引っかかると、6つ戻っちゃうぞ。」(パパ)
ウサギは無事「バナナ」を通過しました。
「やったー。」(ウサギ)
パパの番です。パパの駒は現在「なす」にあります。余談ですが昨晚食べた「なすとピーマンの味噌炒め」は美味しかったなー。ママに感謝。

パパが振ったサイコロの目は3。

「うわー、バナナに引っかかったよー。」(パパ)

バナナにはじかれて「ねぎ」までもどります。

序盤戦は水をあけられましたが、中盤戦は「抜きつ抜かれつ」のデッドヒートゲーム。

しかし最後はウサギに逃げ切られゴール。

「またウサギが勝ったよ。たまにはパパに勝たせてよ。」(パパ)

「うん。」(ウサギ)

今晚も真夏の決戦が行われます。(代表 天野 市栄)

第70話：真夏の夜にウサギと「すごろく」にはまっています。(続編)

(2015年8月13日付けブログ)



「負けるが勝ち」

毎日・朝晩、ウサギとすごろくゲームを楽しんでいますが（正直に言えば「付き合わされている」ということになりますが…）、負けず嫌いなウサギは勝ちにこだわります。サイコロの目の出方は子どもが振っても大人が振っても同じです。ですからハンディキャップなしでゲームをスタートしますが、私の駒がウサギの駒を追い抜いてゴール近くの枠に達すると、私のゴールを阻止しようとウサギは「ウサギが勝つ！」と叫び声を上げてくるので、私はわざとサイコロをボードの外に出します。サイコロがボードの外にはみ出ると得点にはなりません。そうやってウサギに勝ちを譲るのですが、これではフェアーナゲームとは言えませし、八百長試合のように最初から結果が決まっていては面白くありません。

ある日、いつものとおりウサギがゴールし、私の駒が数個手前のイチゴのショートケーキでゲームが終了しました。その時ウサギが私に発した「ウサギは何にもないけれど、パパはケーキ食べられるね。」という何気ない一言がヒントになりました。このすごろくは子ども（未就学児）が言葉を覚えるレッスン用に開発されたゲームです。スタートから始まり、野菜・果物・食事・お菓子の順で枠が並んでいます。枠には食べ物のイラストと名前がひらがなで表示されています。特にゴール近くはお菓子の枠になってい

ます。チョコレート、アイスクリーム、ショートケーキ、キャンディーとウサギの好きな食べ物が並んでいます。一方、ゴールの枠には白い大きな星形しかありません。ゴールしても（ゲームに勝っても）食べるものが無いのです。むしろ負けた方がおいしい食べ物をゲットできるのです。私はウサギに言いました。「ウサギ、勝っても（ゴールしても）食べるものはないよ。負けた方がお菓子を食べられるよ。パパのチョコレート、ウサギに半分あげるよ。」

それからは、勝ちにこだわることがなくなったウサギとフェアーなすろくゲームを楽しんでいます。ウサギの長い人生、山あり谷ありの人生ですが、フェアプレー精神で乗り越えてほしいと思います。（代表 天野 市栄）

第71話：涼しさを感じる夏の風物詩といえば、これもありましたね

（2015年8月13日付けブログ）



今週はお盆ウィーク。一昨日（8月12日）からお盆の帰省が始まったようですが、故郷でお盆休暇を過ごしている方も多いと思います。新潟駅の新幹線ホームに到着した新幹線から、大勢の親子連れが降りて来るシーンがテレビで流されました。

連日続いた30度を超す猛暑も一服して幾分和らいだ感じがします。さて、この暑さを乗り切って涼しさを感じようとウサギとお化け（幽霊）を作りました。折り紙とペーパークラフトで作りました。ウサギとお化けを作りながら、まだクーラーが普及していない

かつた私の少年期の夏を思い出します。

・夢中になって観たろくろく首やお岩さんのテレビドラマ～ヒュー、ドロドロ。

恨めしやー

・近所の子どもたちと楽しんだ肝試し～お墓から人魂が出たー

・近くの神社の薄暗い屋根裏に上がって、先輩格の悪ガキから聞いた怪談話

～薄暗い和式トイレの便器の中から白い手がそっと伸びて来る…

頭髪や腕の毛筋が立ってぶるぶると身震い。「怖いよー」…。

少しは涼しくなりましたか。

「ウサギ、おへそを出していると、傘お化けや提灯お化けの長い舌が伸びてきて食べられちゃうよ。」(代表 天野 市栄)

第72話：真夏の夜にウサギと「すごろく」にはまっています（続々編）

(2015年8月15日付けブログ)



One for all All for one

(みんなは一人のために一人はみんなのために)

連日、ウサギとフェアーなすごろくゲームを楽しんでいますが、二人の共通の敵というか、ゴールにたどり着くには乗り越えなければ壁が2つあります。一つは「バナナ」が仕掛ける6つ戻りと「にく」が仕

掛ける4つ戻りの壁です。駒が「バナナ」や「にく」に近づくと緊張が走ります。ウサギの駒はバナナの壁を越えて一つ先の「スイカ」の枠にジャンプ。

「やったー。」(ウサギ)

しかし、私の駒は「バナナ」の壁にはじかれて6つ戻りの「ネギ」に逆戻りしました。

「パパ、がんばって」(ウサギ)

「はい、パパがんばるぞ。やった、バナナを越えられたよ。」(パパ)

「バナナ」の壁を越えられた二人を待ち受けるのは「にく」の壁です。私の駒は、無事にこの壁を越えられましたが、ウサギの駒は「にく」の壁に引っかかって4つ戻りの「おすいもの」まで逆戻りです。

「ウサギ、頑張って。」(パパ)

「うん。」(ウサギ)

ウサギの駒も「にく」の壁を無事に越えました。あとはゴールを目指して二人の競争が続きます。また、ウサギの駒が先にゴールしました。なぜかウサギの方が勝率は高くなっています？？？

「やったー。パパもゴールしよう。」と言って、ウサギはサイコロを何度か振って私の駒をゴールまで運んでくれました。

「パパと一緒にゴールしたよ。」(ウサギ)

「ありがとう、ウサギ」(パパ)

自己中心的な言動は幼児期に見られる特徴的な思考様式だそうですが、どうやら自己中のウサギの心に相手や他人を気遣う気持ちが芽生えてきたようです。

先日、妻から聞いた幼稚園でのウサギの様子についての話を思い出しました。ウサギは遊んだ後の後片付けをするときに、先生の手伝いをしてくれているという話です。

ウサギの心に芽生えた「相手を思いやる気持ち」を大切に育てたいと考えています。

(代表 天野 市栄)

第73話：ミニトマトの畑にお化けが出たー

(2015年8月24日付けブログ)



5月上旬にウサギと種をまいて育てたミニトマトも今ではこんなに成長し、茎がウサギの背丈を超えるくらいまでの高さになりました（過去ログはこちら）。先月中旬頃から、ウサギと朝晩の水やりを兼ねて、小さな赤い実を収穫して家族で食べています。（写

真左) 収穫したミニトマトは生のまま食べてもおいしいのですが、妻の発案で干して乾燥させたものを調理に使っています。先日、半分くらい干したミニトマトを食べたところ、甘くて生のものとは全く違う濃厚な味が楽しめました。

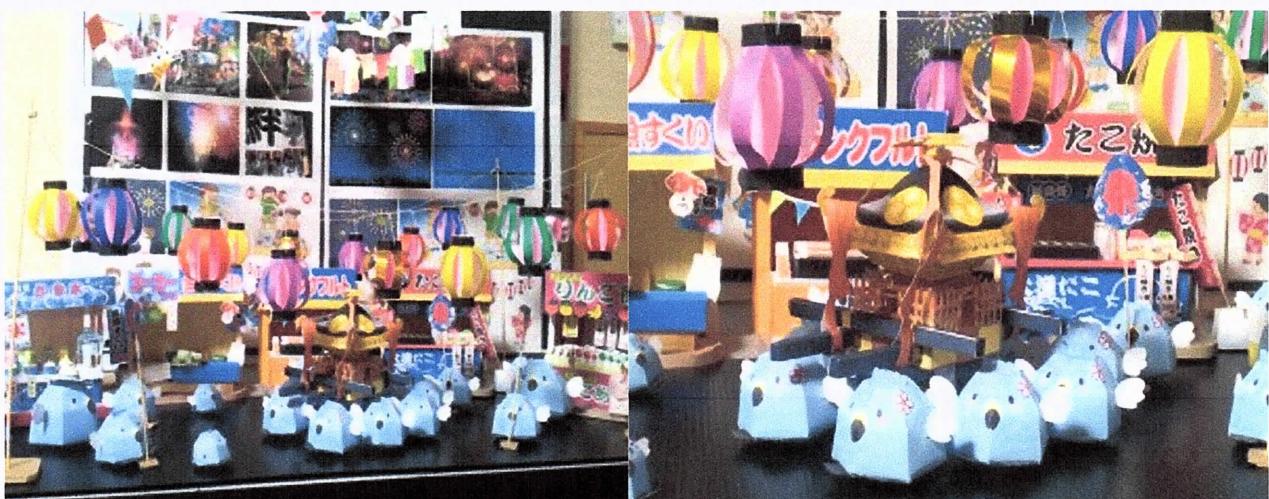
さて、今朝、数日振りにウサギと収穫を兼ねた水やりをしにミニトマトの畑に向かつたところ、びっくり！ミニトマトの根元に大きな白いキノコがよきによきと顔を出していました。(写真右) それを見たウサギは「お化けキノコだー」と絶叫。トマトの葉が広がったことから日光がさえぎられ根元は薄暗く湿っています。キノコにとっては絶好の生活環境のようです。インターネットでこの白いキノコを調べてみましたが、正体は分かりませんでした。毒があるかもしれないで、撤去することにしました。

「キノコのお化けが出たー」…真夏の怪談話でした。

(代表 天野 市栄)

第74話：町内の夏祭りが始まりました（その1）

(2015年8月26日付けブログ)



今年も町内会最大の行事である夏祭り（菅原神社大祭）が8月24日・25日の2日間の日程で行われました。祭りの1週間前から町内会の山車に乗る小学生（高学年）の太鼓や樽を叩く練習が始まりました。夕方6時過ぎになると近くの公園から太鼓や笛の音が聞こえきます。夕食後、太鼓の音に誘われウサギと小学生の練習風景を見に公園に出掛けました。公園には祭典本部のテントが張られ、薄暗くなった公園には提灯に明かりが灯されています。その下で、ドドント・ドン、ピーシャラ・ピーシャラ、トコトン・トコトン、太鼓に横笛に樽を叩く音が心地よく周囲に響き渡ります。特に太鼓の音はお腹にズシーンと響きますね。

「ウサギも太鼓を叩きたい？」（パパ）

「うん」（ウサギ）

「小学生になつたらね。」（パパ）

ウサギと毎晩、太鼓の練習を見に公園に通いましたが、練習の甲斐あってか段々と上手く叩けるようになりました。

「太鼓でも何でも、練習しないと上手くなれないんだよ。」（パパ）

「うん」（ウサギ）

本当に分かっているのかな？（パパのつぶやき）

「すっかり暗くなったね。お家に帰って線香花火をしよう。」（パパ）

「うん」（ウサギ）※次号に続く。

（代表 天野 市栄）

第75話：町内の夏祭りが始まりました（その2）

（2015年8月27日付けブログ）



お祭り初日の24日の昼間は神社のお神輿と町内会の山車が町内を巡ります。夜はろうそくを灯した灯籠が町内を練り歩きます。ワッセ・ワッセ・ワッセと威勢の良い掛け声を上げて、灯籠3体（大人男女、子ども）が家の前を通り過ぎました。灯籠には大きな絵が描かれていました。「すごい！」（ウサギ）「きれい」（パパ）

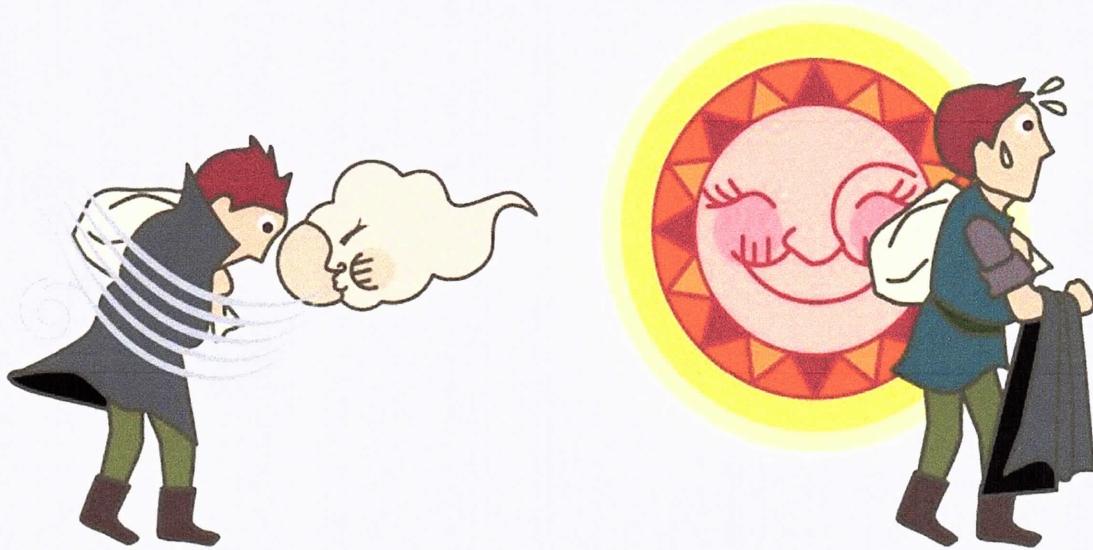
お祭り2日目は子供向けのイベントが沢山あります。ウサギの従兄にあたるヒデちゃん（小学2年）も誘って4人でイベント会場の公園に向かいました。公園ではスカッと

ボール・金魚すくい・健康ボール・かき氷・わたあめ・ポップコーンなどを子どもたちに人気のイベントや食べ物が沢山用意されていました。まずは、わたあめから。雲みたいなわたあめをほうばります。ウサギの口の周りは乾いた氷砂糖で白くなっています。ヒデちゃんはちぎって食べているため、口の周りはベトベトになりません。さすが小学生。上手に食べています。次は、健康ボールです。ウサギは黒いボールを、ヒデちゃんは桃色のボールを吊り上げました。テントの中に入って一休み。ウサギ、かき氷は何色？水族館や家で食べるかき氷の色（シロップ）は決まってマリンブルーですが、今日はなぜか緑色です（写真左）。ヒデちゃんの方はかき氷をパスして、偶然見つけた小学校の同級生と遊んでいます。パパの楽しみは生ビールです。枝豆をつまみにゴクン。美味しい！最後は金魚すくいに挑戦です。昨年の夏祭りの時は網が破けてしましましたが、今回は上手くいきました。ウサギは赤と黒の金魚をゲットしました。パパも挑戦。赤と白の金魚をゲットしました。ヒデちゃんの方は赤2匹と黒1匹の3匹です。さすがに小学生ですね。手慣れたものです。

午後からは山車を引いて町内を回ります。山車が公園を出発する前に神楽舞による演舞がありました。獅子頭の大きな口が子どもたちの頭を包み込みます。ウサギの頭もパックリ。ウサギ、お利口さんになるよ。台風15号の影響でしょうか、風が強くなりましたが、雨の方は心配ないようです。いよいよ山車の出発です。ドドント・トン、ピーシャラ・ピーシャラ、トコトン・トコトン。山車の中では、小学生が太鼓に横笛に樽を叩く音が威勢よく周囲に響き渡ります。大人が手綱の前を握りその両脇を子どもたちが握って山車を引きます。ウサギはママと一緒に手綱を引きます。ヨイショ。ヨイショ。（写真右）山車は1時間ほどかけて町内を練り歩き公園に戻ってきました。お疲れ様でした。子どもたちにはお菓子の入った袋がプレゼントされました。ウサギも大喜び。さっそくお家に帰って食べようね。（代表 天野 市栄）

第76話：北風と太陽 みなさんはどちらですか？（その1）

（2015年9月4日付けブログ）



「北風と太陽」はイソップ寓話のひとつですが、そこから転じて物事に対して厳罰で臨む態度（北風）と、寛容的に対応する態度（太陽）の対比を表す言葉として用いられています。子育てに関して、あなたは「北風」派ですか。「太陽」派ですか。

私たちが覚えている「北風と太陽」の話は次のとおりです。

ある時、北風と太陽のどちらが旅人の上着を脱がせることができるか、という勝負をします。

1. まず、北風が力いっぱい吹いて上着を吹き飛ばそうとする。しかし寒さを嫌った旅人が上着をしっかりと押さえてしまい、北風は旅人の服を脱がせることができなかった。

2. 次に、太陽が燦爛と照りつけた。すると旅人は暑さに耐え切れず、今度は自分から上着を脱いでしまった。この勝負は太陽の勝ちとなりました。
この話から得られる教訓は次のとおりです。

- ・手っ取り早く乱暴に物事を片付けてしまおうとするよりも、ゆっくり着実に行う方が、最終的に大きな効果を得ることができる。
- ・冷たく厳しい態度で人を動かそうとしても、かえって人は頑なになるが、暖かく優しい言葉を掛けたり、態度を示すことによって初めて人は自分から行動してくれる。

実は「北風と太陽」にはまた別の話もあります。北風と太陽がした最初の勝負は旅人の帽子を脱がすことでした。

1. 最初、太陽は燦爛と旅人を照り付けると、旅人はあまりにも強い日差しで帽子を

しっかりとかぶり決して脱がなかった。

2. 次に北風が力いっぱい吹くと、みごと簡単に帽子は吹き飛んでしまった。

その次に行った勝負は旅人の上着を脱がす勝負でしたが、この勝負の結果は周知の如くです。

この2つの話（旅人の上着を脱がす、旅人の帽子を脱がす）から得られる教訓は次のとおりです。

- ・何事にも適切な手段が必要である
- ・一方でうまくいったからといって、他方でもうまくいくとは限らない。
その逆も然り。
- ・しっかりと、結果を見据えて、手段を選ぶべきである。

出典：ウキペディア・フリー百科辞典

※次号に続く。（代表 天野 市栄）

第77話：北風と太陽 みなさんはどちらですか？（その2）

（2015年9月7日付けブログ）



私の場合、ウサギが私や妻の話す言葉を理解できるについて、「北風」政策から「太陽」政策へと転換しました。以前は、ウサギが親の言うことを聞かない時や悪いことをした時に「ウサギ、（掃除機で）ビュンビュンして吸い取っちゃうぞ。そうなったらごみになって清掃車に運ばれてしまうぞ。」と言って脅かして、悪い行いを矯正させようと試みたのですが、次第に効き目は薄れていきました。（育児レポート第23話を参照）

そこで、北風政策をやめて太陽政策に方針転換することにしました。（話し）言葉を覚えるについて会話ができるようになります。言葉が理解できることは、考える力が付いたことを意味します。家での私や妻との会話に加え、ウサギが通う幼稚園の先生やお友達との会話を通じて思考能力が徐々に身に付いてきます。

ウサギが悪いことをした時には、なぜ、そういうことをしてはいけないのか、分かり

易い事例を挙げて説明します。例えば、積木で遊んだ後、後片付けをしなかった場合、「ちらかしつぱなしじや、お友達が積木で遊びたくてもできないよ。」食事の時間に席を離れて騒いでいる時には、「ウサギ、幼稚園でもこんなことしているの。静かに給食を食べているお友達が嫌がるよ。先生に叱られるよ。」など、幼稚園での生活を引き合いに出します。そうすると「ウサギは幼稚園ではそんなことはしていないよ。」と反論して悪い行いがストップします。

「己の欲せざる所は、人に施す勿れ」という孔子の言葉があります。自分がいやだと思うようなことを人にしてはいけない、という意味です。ウサギが成長するにつれて交友関係が広がっていきます。良好な人間関係の構築は人生を賢く生き抜くためには欠かせないツールです。私も子どもの頃、「人様の迷惑になるような事はするな。」と親にきつく言われたことを覚えています。逆に、ウサギが良い行いをしたときは大げさに褒めてあげます（褒め殺しとは違いますが…）。時には親としての良い手本を示すこともあります。「やってみせ 言って聞かせて させてみて ほめてやらねば 人は動かじ」（山本五十六）ですね。言葉を理解できるようになったウサギの躾に必要なことは、強制・強要ではなく動機づけ（モチベーション）だと考えています。

(代表 天野 市栄)

第78話：お父さん・お母さん あなたの働いている姿を子どもに見せていますか。

(2015年9月10日付けブログ)



私が愛読する地元紙では日・月曜日を除く毎日、県内各地域の記事が掲載される地域版コーナーの上部に県内の小学生の近況報告が学校単位で掲載されています。現在取り組んでいる（チャレンジしている）事や将来の夢や就きたい職業が載っています。（この

件についての過去ログはこちら)

将来就きたい職業ではその理由も載っています。私が注目しているのは、その職業を選んだ理由です。特に親や家族の職業との関連性です。4月14日から9月5日まで集めた371件のデータ（新聞切り抜き）について調べたところ、21人の小学生が親や家族の職業を将来の就きたい職業として挙げました。家族の職業を選択した割合は5.6%です。ちょっと残念な数字です。

少子高齢化・人口減少が急速に進む地方都市では、地場の産業である農業・商工業の衰退が顕著です。最大の経営リスクは後継者難・後継者不足です。家業を継ぐ子供がないことにより、商店街はシャッター通り化し、農村地域では耕作放棄地が増えています。（全国の耕作放棄地は今や滋賀県の面積に匹敵するとか。）

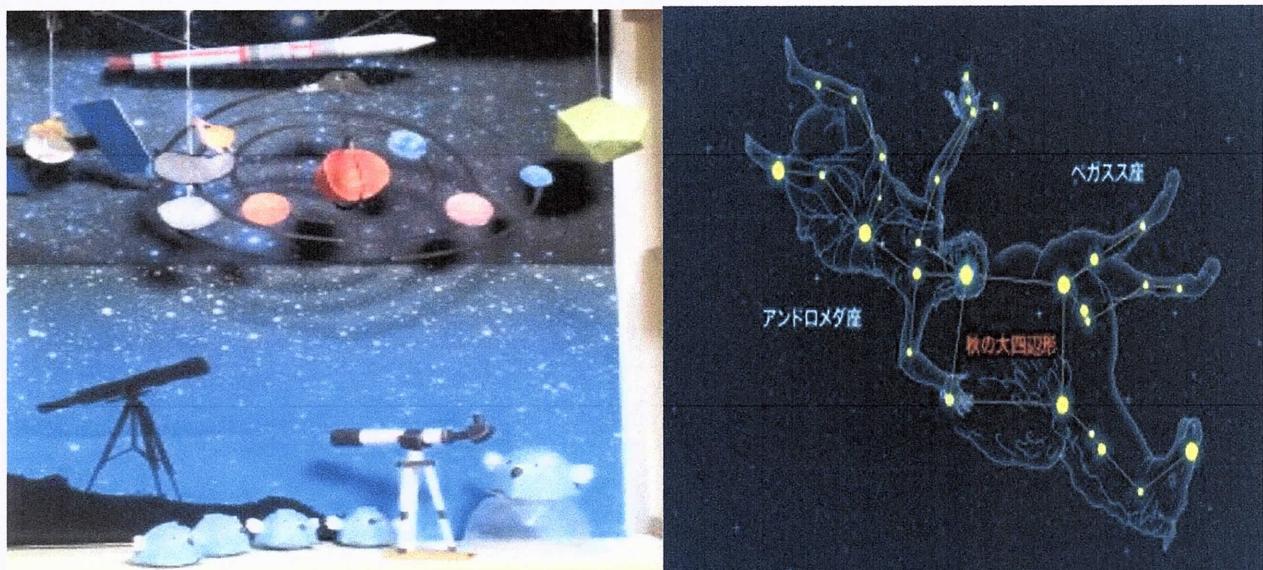
最後に、お父さん・お母さんの働く姿（背中）を見て職業を選択した19人の小学生を紹介します。

- ・工場で働くお父さんの姿を見て職業を選んだ4年生のK.I君
- ・植木屋さんをしているお父さんの働く姿を見て職業を選んだ5年生のA.I君と6年生のY.H君
- ・野菜を作っているお父さん・お母さんの働く姿を見て八百屋を選んだ3年生のH.H君
- ・電気屋さんをしているお父さん・お母さんの働く姿を見て職業を選んだ1年生のY.S君
- ・看護師をしているお母さんの働く姿を見て職業を選んだ5年生のI.Kさんと2年生のN.Kさん
- ・お米農家をしているお父さん・お母さんの働く姿を見て職業を選んだ5年生のM.Mさん
- ・介護福祉士をしているお母さんの働く姿を見て職業を選んだ5年生のH.Sさん
- ・保育士をしているお父さんの働く姿を見て職業を選んだ3年生のH.Mさん
- ・着物を作る仕事しているお母さんの働く姿を見て職業を選んだ3年生のA.Mさん
- ・中学校の給食を作っているお母さんの働く姿を見て調理師を選んだ5年生のS.Kさん
- ・美容師をしているお母さんの働く姿を見て職業を選んだ4年生のS.Tさん
- ・トラクターやコンバインを運転するカッコイイお父さんの姿を見て農家を選んだ2年生のS.M君
- ・看護師をしているお母さんの働く姿を見て職業を選んだ2年生のN.Kさん
- ・建築業の仕事をしているお父さんの働く姿を見て建築家を選んだ5年生のR.W君
- ・家業の野菜農家を手伝いながら農家を選んだ5年生のA.K君

- ・建物に関わる仕事をしているお父さん・お母さんの働く姿を見て大工に選んだY.S君
 - ・家の近くで仕事をしているお父さんの働く姿を見て建物の施工管理士を選んだ5年生のS.M君
- お父さん・お母さん お子さんは、あなたの背中をしっかりと見ていていますよ。
 (代表 天野 市栄)

第79話：秋の夜長に星空を見上げれば…

(2015年9月13日付けブログ)



澄み切った秋空の下、黄金色のじゅうたんが広がる田んぼでは稲刈りが始まりました。秋の夜長、読書もよいのですが、たまには夜空を見上げてはいかがでしょうか。天高くかけるペガサス座やアンドロメダ座、ペルセウス座など、ギリシャ神話でおなじみの星座たちを見つけることができます。ギリシャ神話に登場する秋の星座の主人公たちは、神々と人間が織りなす壮大なストーリーで、私たちを神話の世界に案内してくれます。なかでもペガサス座とアンドロメダ座の4つの星を結んでできる大きな四角形を「秋の大四辺形」(写真右、スタディスタイル★自然学習館より引用)と呼び、秋の星座ガイド役にもなっています。

秋の夜長、ウサギと人工衛星や惑星、ロケットのペーパークラフトを作りながら(写真左)、ロボットの家(県立自然科学館のこと)にあるプラネタリウムへと話が広がっていきます。これまで何回かウサギとプラネタリウムに入ってみるのですが、ほどなく退却。

「ウサギ、今度、プラネタリウム入ってみる？きれいなお星さまが見えるよ。」

(パパ)

「うん。」(ウサギ)

「怖くない？」(パパ)

「怖くないよ。」(ウサギ)

「よし、今度の連休に出掛けよう。」「パパ」

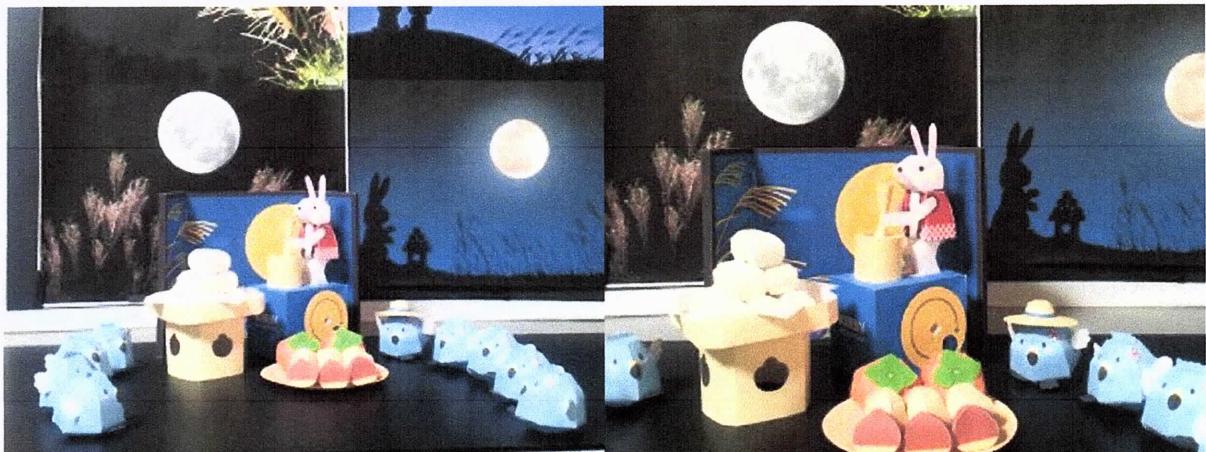
「わーい(*^-▽^-*)」(ウサギ)

「今度こそ大丈夫かなー」(パパの独り言)

(代表 天野 市栄)

第80話：明日は十五夜 中秋の名月は見られるかな

(2015年9月26日付けブログ)



「うさぎ うさぎ なに見てはねる 十五夜お月さま 見てはねる」(童謡)

澄み渡る秋の空。お月見にぴったりの季節となりました。お月見といえば「十五夜」(「満月」のこと)を思い浮かべますね。満月は年に12回、13回巡ってきます。なかでも旧暦の8月15日は1年の中で最も空が澄みわたり月が明るく美しく見えるため「中秋の名月」と呼ばれ、平安時代からお月見の宴が開催され、江戸時代から収穫祭として広く親しまれるようになりました。

さて、明日(27日)は旧暦の8月15日にあたる日です。私が住んでいる新潟県下越地方の明日の天気は「晴時々曇」の予想です。中秋の名月が期待できるかな?ウサギとペーパークラフト(写真)を作りながら、ふと、私の子どもの頃に体験した十五夜の情景を思い浮かべました。ススキを花瓶にさして、柿や梨などの季節の果物と団子を器に盛り

付けそれらを縁側に飾って、十五夜のお月さまを眺めた記憶が思い出されます。四季の移り変わりがはっきりしている日本では、各地で季節に合わせた年中行事が行われていますが、最近では家で行われる年中行事が簡素化され、やがては消えて無くなっていくのを見るにつれ一抹の寂しさを感じます。

「ウサギ。明日、ママと十五夜の団子を作るって、ほんと？パパ楽しみにしているよ！」（食いしん坊のパパの独り言）
(代表 天野 市栄)

第81話：町内会の文化展にウサギとの合作を初めて出品します！

(2015年10月23日付けブログ)



私たち親子3人が住んでいる町内会の文化展が自治会集会所にて明日24日（土）～25日（日）の2日間の日程で行われます。今回初めてウサギと共同制作した作品を出品します。今日は午前中、会場に作品の搬入を行いました。

出品する作品のテーマは「夏休みの思い出」です（写真）。制作期間は約2か月半、材料のほとんどは100円均一ショップで調達できたので費用は1,500円くらいで済みました。折り紙を主体に、ひまわり（大きいもの）・ごずっちょ（阿賀野市イメージキャラクター）などはペーパークラフトで制作しました。真ん中の木は本物の木（桜）です。私の実家に植えてある桜の木の枝を使いました。

ウサギの夏休みの思い出というよりは、私が少年期（小学生の頃）にふるさとで過ごした夏休みの思い出です。魚捕り・川遊び・昆虫採集・木の実の採取・細い竹を削って作る水鉄砲など、周りに広がる自然が子どもの遊び場であり、生き物（植物・動物）や石・砂・土などの自然鉱物が遊び道具でした。

故郷

「兎追ひし かの山 小鮒（こぶな）釣りし かの川 夢は今も めぐりて 忘れがたき 故郷（ふるさと）」（作詞：高野辰之、作曲：岡野貞一）

少年時代

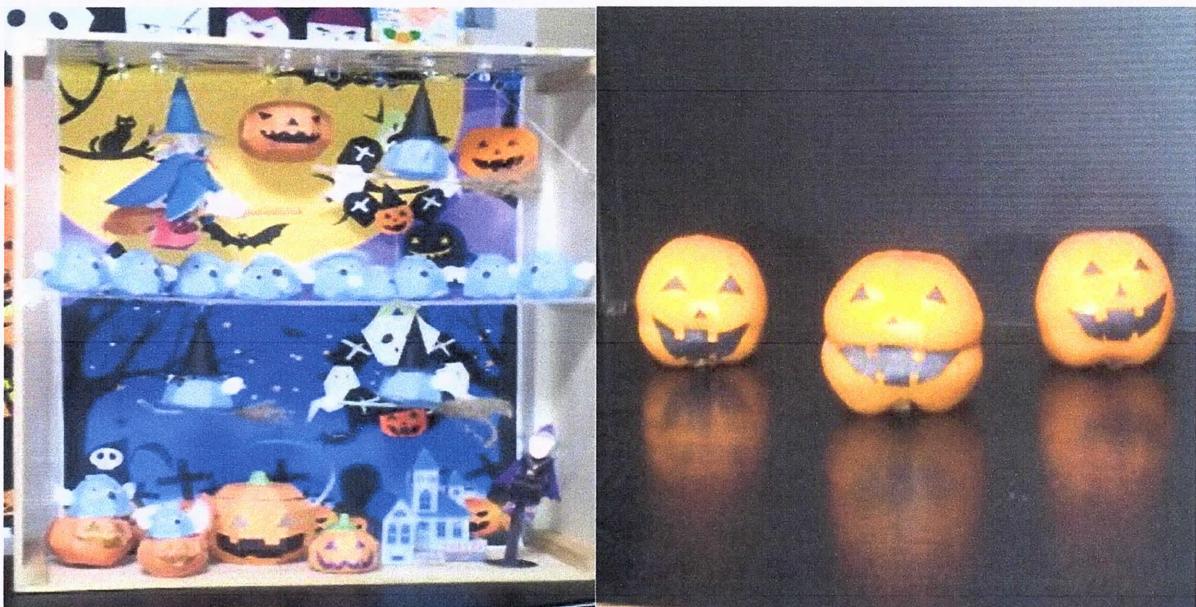
「夏が過ぎ 風あざみ 誰のあこがれにさまよう 青空にのこされた 私の心は夏模様」（歌手・作詞・作曲：井上陽水）

パパの少年時代でした。（代表 天野 市栄）

第82話：明日はハロウィーン（Halloween） ウサギ、

「Trick or Treat（トリック・オア・トリート）」ってなあに？？？

（2015年10月30日付けブログ）



明日10月31日はハロウィーン（Halloween）です。ウサギが通うタンポポ幼稚園では毎週、英語のレッスンがあって、英語の先生からハロウィーンにちなんだ言葉を習っているようです。先日の夕食時にウサギからハロウィーン（お化けの日？）についてのレクチャーを受けている時に、ウサギの口から突然出た「Trick or Treat（トリック・オア・トリート）」という言葉に私も妻も(*_*)「？？？」

早速、ハロウィーンについてネットで調べました。

ハロウィーンは毎年10月31日に行われる、古代ケルト人が起源と考えられている祭りが起源で、もともとは秋の収穫を祝い、悪霊などを追い出す宗教的な意味合いのある行事でしたが、現代では特にアメリカ合衆国では祝祭本来の宗教的な意味合いはほとんど

なくなつて、今では民間行事として定着しています。カボチャの中身をくりぬいて「ジャック・オー・ランタン」を作つて飾つたり、子どもたちが魔女やお化けに仮装して近くの家々を訪れて、お菓子をもらつたりする風習などがあります。子供たちが「Trick or Treat (トリック・オア・トリー・ト)」という言葉（直訳では「いたずらか、お菓子か」で、聞いている側としては「お菓子をくれないと、いたずらしちゃうぞ」というニュアンスに聞こえる言葉）を唱えながら家々を訪ね、菓子を集めて回る習慣があるそうです。（出典：ウィキペディアフリー百科辞典）

妻が調理したかぼちやの煮物を残して大好きなグミ（お菓子）をせがむウサギにママの逆襲。「ウサギ、かぼちやを全部食べないと、お化けになって出てくるぞ」（写真右）（あとがき）

写真（右）は知人から頂いた柿でした。中国で作られている柿で日本の柿の約2倍の大きさです。「ジャック・オー・ランタン」を作ろうと、家畜の飼料用に使う大きなかぼちやを探していましたが、なかなか手に入らなかつたため、ジャンボ柿で代用しました。このジャンボ柿は残念ながら渋柿です。そのままでは食べられません。はてさて、どうしたものやら（代表 天野 市栄）

第83話：ウサギの通う幼稚園の展覧会を見に行きました。

（2015年11月18日付けブログ）



先日、家族3人でウサギが通うタンポポ幼稚園の展覧会を見に行きました。園児たちが幼稚園で制作した作品が展示されていました。ウサギが家で制作した「ひらめき作品」もありました。この「ひらめき作品」は、幼稚園からあらかじめ提示された図形を

使って絵を完成するものです。ウサギに与えられた図形は浮き輪の一部が欠けた形です。この形から何が連想できるかな？「難しそう。うーん、ひらめいた！」（写真左）。「食べかけのドーナツ」です。ウサギ（娘）とうさぎ（動物）が大きなドーナツを食べてお月見をしている絵です。ススキや栗も入れます。パパとママも手伝って完成した秋の風物詩です。（写真右）。

展覧会では園児たちの個性あふれる独創的な作品が展示されていました。私が特に目にとめた作品群は、お菓子などの空き箱やラップの芯など家庭で不要になったものを使って創作したカブトムシやクワガタ虫などの昆虫たちです。使った空き箱を見ていると今どきの子供たちの好きなお菓子が分かりますね。パパも園児たちのように家にたまっている不用品を使って今度こそ独創的な作品を作るぞー。（いつも意気込みだけはあるのですが、行動に入れません。とほほ……）（代表 天野 市栄）

第84話：猫の額ほどの小さな畑に秋野菜の苗を植えました

（2015年11月21日付けブログ）



車庫脇の空き地の一部を畑（一畠ほどの広さですが…）にしてミニトマトを育てました。（これに関する過去ログはこちら5/8付け、8/24付け）家庭菜園は初めての挑戦でしたが、素人ながらもたくさんのトマトを収穫できました。そのまま生で食べたり、干し乾燥にしてそれを使って調理したりと、家族でミニトマトを楽しみました。10月に入つても花芽が出てきて青い実が付くのですが、赤くなるまで時間がかかるようになりました。日照時間が短くなったりや気温が低くなったりしたのでしょうか。秋野菜の苗を植え

る時期になったことから、まだ実の付いているミニトマトですが、思い切って木のよう に硬くなった茎を地面から引っ抜いて、青い実はザルに入れて熟して赤くなるのを待つことにしました。青い実は200個くらい収穫できました。

ミニトマトを引っ抜いた後の畑に肥料（鶏糞）を入れてスコップで耕していたら、 びっくり。土の中から昆虫の幼虫らしきものが8体出てきました（写真右）。どうやら幼虫も冬ごもりを始めたようです。畑に小さな穴を掘って8体の幼虫を土に中に戻してやりました。「幼虫さん、起こしてごめんなさい。来年の春までお休みなさい。」畑を整地したあとブロッコリーの小さな苗を植えました（写真左）。これからは朝晩の冷え込みが厳しくなる時期です。霜が降りて苗がだめにならないようにと畑にビニールシートをかぶせました。ブロッコリーの収穫が楽しみです。

（あとがき）

我が家では今年の春から家庭菜園を始めました。簡単に育てられる野菜としてミニトマトを選んで、種を蒔いて実を収穫することができました。苗から育てたパプリカ（赤・黄）も、これまで十数個の実を収穫できました。子育てと野菜を育てるには共通点が多いようです。特に、種蒔きから育てたミニトマトからは学ぶべき点が多くったと感じています。ミニトマトの約7か月間の栽培期間には二十数年かかる子育て期間が凝縮されていたと考えています。後日、ミニトマトの栽培から学んだことを育児レポートでお知らせしたいと考えています。

（代表 天野 市栄）

第85話：家族で地産地消の味覚を楽しみました。でも被害農家の心情を考えると素直に喜べません

（2015年12月1日付けブログ）



今日から師走（12月）です。今年、我が家では家庭菜園に初挑戦しました。ウサギからは種蒔きや水やりなどを手伝ってもらい、妻からは収穫した野菜（ミニトマト・パプリカ）を使ってイタリア料理を作ってもらいました。初めての家庭菜園でしたが、出来栄えの方はまあまあでした。失敗を教訓にして秋野菜・春野菜に現在チャレンジしています。（こちらについては後日お知らせします。）また、ウサギからは幼稚園の芋掘りでジャガイモやサツマイモを収穫してもらい、妻からは肉じゃが・焼き芋などに調理してもらい、家族で地産地消の味覚を楽しみました。（写真左）

我が家では、普段食べているお米や野菜の多くは妻の実家から頂いています。妻の実家は大規模専業の稻作農家ですが、8月下旬の台風15号の被害を受けて今年のコメの作柄（収量・品質）は最低でした。地元紙が10月20日に伝えた記事によると、阿賀野市産コシヒカリの1等米比率がわずか3%だったそうです。収穫を目前にした8月下旬に襲った強風によって、丹精込めて作って育てた稻穂が一晩で「白穂」や米粒が抜ける「脱粒」となりました。収量の減少・品質の低下による被害額は約17億円にもなりました。被害農家の苦衷は察するに余りあると考えています。（我が家でもミニトマトの被害がありました。）

今年も妻の実家から沢山頂いた大きな柿（渋柿）を、渋を抜いて食べたり干し柿にしました（写真右）。皮肉な事ですがコメの作柄が悪い年には柿がよくできるそうです。（大規模専業農家の義父の話）家庭菜園を通じて農家の方の苦労がよく理解できました。（代表 天野 市栄）

第86話：「育メンカレンダー2016」を作成・発行しました。

（2015年12月17日付けブログ）



私を含めて日々、育児に奮闘している・育児を楽しんでいる育メン諸氏にお知らせします。

このほど、エクセルを使って2016年版の育児カレンダーを作成しました。A4版サイズの月別カレンダーです。上段の空欄は、写真を貼ったり・イラストなどを書いたりしてオリジナルのカレンダーを作つて楽しんでください。私の場合は、娘と作ったペーパークラフトの作品と関連する娘の写真を掲載しました（写真は8月と12月のカレンダー）

※育メンカレンダー2016は下のPDFを開いてください。なお、印刷用紙はマット紙（インクジェットプリンター専用）をお奨めします。きれいに印刷できます。

育メンカレンダー2016（1-6）

育メンカレンダー2016（7-12）

(*「育メンカレンダー2016」は「ライブラリー」ページに「グッズ」コーナーを新設し収納しました。1月～12月のカレンダーはこちらをクリックしてください。)

月別カレンダーに掲載されている「子育て金言」は2月を除いては、はやし浩司さんのホームページ「子育て格言集」から引用しました。金言の意味についてはこちらのサイトで確認してください。なお、2月の金言は私の座右の銘の一つにしている山本五十六の言葉です。山本五十六は新潟県長岡市出身の軍人です。太平洋戦争時に連合艦隊司令長官として、真珠湾攻撃・マレー沖海戦を指揮し戦勝に導きました。私はこの言葉を娘の子育ての場面で活用しています。

「育児は育自」と言われているように、子供を育てることは自分の成長にもつながっています。私の場合、日々の子育てから新たな発見や気づきが生まれています。子育てを苦労と考えないで自分を成長させるための糧やヒントにしていただきたいと思います。（代表 天野 市栄）

第87話：ミニトマトの栽培から得た子育てのヒント（その1）

(2015年12月18日付けブログ)



育児レポートで何度かお知らせしたように、我が家では今年の春から家庭菜園を始めました。簡単に育てられる野菜としてミニトマトを選んで種から育てました。初めての経験でしたが沢山の実を収穫し、家族で美味しくいただきました。苗から育てたパプリカ（赤・黄）も、これまで十数個の実を収穫できました。「子育て」と野菜を育てるには共通点が多いようです。特に種から育てたミニトマトからは、子育てに役立つヒントを得ることができました。わずか約7か月の栽培期間ですが二十数年もかかる子育て期間が凝縮されていたと考えています。

ミニトマトの種はポットに蒔いて、目が出て生長し苗の状態になった頃（写真左）に、3本はプランターに植え10本は半畳ほどの畑に移植して育てました。プランターで育てたミニトマトと畑で育てたミニトマトの生育環境の違いは以下のとおりです。

●プランターで育てたミニトマト

- ・プランターは日当たり良好な場所に設置。しかしプランターの下はコンクリートの床
- ・日々の水やりや施肥は頻繁に

●畑で育てたミニトマト

- ・畑の三方は車庫の壁と高さ1.3メートルほどの外壁に囲まれているため日当たりが不良
- ・日々の水やりや施肥は時々

2つの生育環境の違いがミニトマトの生長に大きな違いが出てきました。条件面（生育環境）ではプランターの方が優位なはずではと思い込んでいましたが、結果（実の数）は大きく異なっていました。1本あたりのミニトマトの収穫量（実の数）は畑で育てた方がプランターで育てたものよりも多かったです。畑で育てたミニトマト（10本）は、生長に欠かせない太陽光を求めて上へ上へと茎を伸ばし沢山の葉を付けまし

た。このため急きよ棚を作つて沢山の葉を付けたミニトマトの茎を支えることにしました（写真右）。しかし畑に植えたミニトマトが8月下旬の台風15号に襲われました。強風が狭い空間を通りミニトマトの棚を破壊したのです。茎が折れたり葉っぱが枯れるなどの壊滅的な被害でしたが、棚を修繕したことでの奇跡的に回復し9月には多くの実を付けてくれました。一方、プランターに植えたミニトマトの方は車庫に避難させたため、台風の被害は免れました。条件面（生育環境）ではプランターの方が優位なはずなのに、結果（実の数）に大きな違いが出てきたのはなぜでしょうか。

※次号に続く。（代表 天野 市栄）

【子育て金言1】

あなたが種を蒔いたように あなたはそれを刈り取らねばならない。（イギリス）

第88話：ミニトマトの栽培から得た子育てのヒント（その2）

（2015年12月19日付けブログ）



条件面（生育環境）では不利な畑のミニトマトが、なぜ条件面では有利なプランターのミニトマトよりも多くの実を付けることができたのでしょうか。畑のミニトマトには逆境（日当たり不良、台風被害）に打ち勝つ底力が備わっていたのではないかと考えています。その「底力」とは何でしょうか。畑の土は地面とつながっています。地面は大地へと広がり、その大地は地球を覆う地殻となって世界とつながっています。一方、プランターのミニトマトの方はプランターという狭い空間に閉じ込められています。しかもプランターの下はコンクリートのため、プランターの底の穴から出た根が地面へと伸びていけないのです。長らく庭に放置されたままになっていた観葉植物の鉢を移動しようと持ち上げようとしたが、鉢が地面から離れないのです。力任せで鉢を引き上げたところ、なんと鉢の底の穴から根が伸びて地面に根を張っていたのです。成長に必要な養分を求めて地面に根を伸ばすたくましい生命力に感動しました。コンクリートで固

められた道路に生じたわずかな隙間から芽を出し、茎を伸ばし花を咲かせている野草を見かけることがあります（写真）。コンクリートの下には地面が広がっています。過酷な環境にもめげない野草の生命力と繁殖力を感じさせます。

畑のミニトマトに備わっていたもう一つの「底力」は、10本の苗が生育に欠かせない光と養分を求めて繰り広げた生存競争です。半畳ほどの小さな畑に植えられた10本のミニトマトの苗が我さきにと太陽光を求めて茎を伸ばし、葉を広げようと競争しました。また、土の中ではより多くの養分と水を求めて根を広げようと競争をしました。これらの環境条件の制約が巨大なミニトマトへと変身させたのです。

現在4歳の娘がこれからどういう人生を歩むのかは分かりませんが、娘には狭い世界に閉じ籠ることなく広い世界に飛び出して成長して欲しいと思います。世界の檜舞台で国籍・言語・人種の壁を乗り越え、様々な人と交流し・時には競争（切磋琢磨）して自分の成長に欠かせない知恵と新しいことにチャレンジする勇気を得て欲しいと思います。※次号に続く。（代表 天野 市栄）

【子育て金言2】

やってみせ 言って聞かせて させてみて ほめてやらねば 人は動かじ
(山本五十六)

第89話：ミニトマトの栽培から得た子育てのヒント（番外編）

（2015年12月20日付けブログ）



このブログを書きながら30歳代前半の頃に夢中になって読んだ「家裁の人」という漫

画（単行本：写真左）を思い浮かべます。家庭裁判所裁判官の桑田義雄（主人公）が、少年審判・家事審判を解決していく話を中心に入間の心情を描いた物語です。ストーリーは必ず植物（特に花）と関連して展開するため、漫画のタイトル「家裁」の「裁」の字が「栽」になっています。TBSテレビでドラマ化もされました（写真右）。

この物語で描かれている主人公（家裁判事桑田義雄）の人物像は次のとおりです。

- ・少年事件の解決と彼らの更生に使命感を感じ、再三の東京への転勤（栄転）内示を拒否して岩崎地方裁判所春河支部の裁判官に留まっている。
- ・植物を愛し、植物の生態に詳しい。裁判所の庭に花を大量に植えた。
- ・温情派の傾向があるが、時には敢て厳しい審判を下すこともある。
- ・同僚や部下が職務に対して不適当な言動をすれば的確で厳しい言葉で嗜める事もある。
- ・行動力や推理力が高く、調書で気になった所を自分で調べたり、申立人に身分を隠して近づいたりする事がある。
- ・初対面で低く評価される事が多いが、並外れた事務処理能力と的確な判断力、仕事に対する強い信念を目の当たりにした人物の大半は彼を慕っている。（以上、ウィキペディアフリー百科辞典から引用）

当時の私は新潟県職員として職員研修所に勤務し、県・市町村職員研修の企画・運営に携わっていました。「家裁の人」で展開されるストーリーが私の仕事（職員の能力開発）と相通じるものがあると感じていました。主人公が植物の生態を教えながら非行少年の更生につなげる場面が特に印象に残っています。現在、4歳の娘を育てながら今年の春から始めた家庭菜園を楽しんでいます。子育てと家庭菜園の関係が、「家裁の人」で展開される非行少年の更生と植物の生態観察の関係とぴったりと合うような気がしています。イギリスには「あなたが種を蒔いたように、あなたはそれを刈り取らねばならない」という格言があるそうです。私はこの言葉を次のように理解しています。

「子どもを養育する立場になった大人は、子どもが一人前の大人に成長するまで責任をもって子どもを育てなければならない。」

【子育て金言3】

引いて、発（はな）たず。（孟子）

（代表 天野 市栄）

第90話：ジングルベル ジングルベル 鈴が鳴る… もうすぐクリスマスですね

(2015年12月21日付けブログ)



もうすぐクリスマス。街はクリスマスのデコレーションで彩られています。商店街もLED照明のイルミネーションで飾られています。我が家でも押し入れから、昨年制作したクリスマス飾りを取り出して飾り付けをしました（写真左）。先日、ウサギが通っているタンポポ幼稚園では、一足早くクリスマス会が開かれ、サンタさんからプレゼントをもらっていました。プレゼントは寿司ネタの写真が掲載された丸いカードでした。家では「いらっしゃい。トロは中トロ こはだ あじ…寿司食いねー。」とねじり鉢巻きをした寿司職人を演ずるウサギとお客様に扮する私とでお寿司屋さんごっこを楽しんでいます。

さて、我が家クリスマスプレゼントは何にしようかと思案しますが、適当なプレゼントが思い浮かびません。そこで、思い切ってウサギに聞いてみることにしました。

「ウサギ、クリスマスのプレゼントは何がいいの？」（パパ）

「ばるばるさんの絵本」（ウサギ）

ばるばるさんの絵本？？？そうだ。思い出しました。先月、幼稚園でお遊戯の発表会があり、ウサギより一つ上のクラスの園児が演じたお話でした。どんな髪型にもできる腕自慢のばるばるさんの床屋にライオンや羊などの動物がやってくるというストーリーです。家でも時々、ウサギがばるばるさんを演じ、私がお客様を演じ、ペンチ（はさみの代用）と定規（櫛の代用）を持って薄くなった私の頭髪を刈りとってもらいます。（私もライオンさんみたいな沢山の髪の毛が欲しい。）

「ウサギ、（地球儀を示して）フィンランドにいるサンタさんに電話してウサギのプレゼントを頼んだよ。でも、いい子にしてないともらえないよ。」（パパ）

「うん。」（ウサギ）

インターネット通販を利用したら何とかクリスマスイブまでには届きそうです。イブ

にこっそりクリスマスツリーの下に置いておこうかな。「ウサギ、喜んでくれるかなー。」(パパの独り言)

※今年の育児レポートは90話で閉じることにします。読者の皆さん、良いお年をお迎えください。 See You Next Year.

【著者紹介】

天野 市栄 (あまの いちえい)

[プロフィール]

昭和33年6月、新潟県阿賀野市に生まれる。地域政党 日本新生代表。

昭和57年3月に新潟大学法文学部を卒業後、同年4月新潟県庁に入庁。地域総合整備財団（ふるさと財団）調査役、表参道新潟館ネスパス チーフディレクターなどの役職を経て、平成19年12月に新潟県庁を退職。平成20年4月に阿賀野市長に就任し平成24年4月までの4年間、阿賀野市政を担当。

2015年12月28日 第1版第1刷

著者 天野 市栄

発行者 地域政党 日本新生

代表 天野 市栄

〒959-2024

新潟県阿賀野市中島町1番4号 ユーチュビル1階

☎0250-62-0640

<p>小さな政党の 大きな目標</p>		<p>小さな政党の 大きな目標</p>	
	<p>地方からこの国のかたちを変える</p>		<p>地方からこの国のかたちを変える</p>
<p>小さな政党の 大きな目標</p>		<p>小さな政党の 大きな目標</p>	
	<p>地方からこの国のかたちを変える</p>		<p>地方からこの国のかたちを変える</p>

地域政党 日本新生

地方からこの国のかたちを変える
方が変われば国も変わる
まずは、地方を変えよう

TEL 0250-62-0640
(FAX)
E-mail : i-amano@cream.plala.or.jp
ブログ 地域政党日本新生